かちまい論壇

大切なこと、忘れられないこと

日本銀行
帯広事務所長
鈴木　正信

とかちに赴任して約3カ月がたちました。空港に降り立ち、最初に感じたのは空気のおいしさ、そしてバスからの「でっかいどう」を実感する車窓です。

私は、この25年以上、東京勤務から離れたことはなく、今回が結婚後初めての単身生活になります。北海道には憧れを持っていましたが、正直、慣れない土地での生活は不安でした。

私の趣味の一つはランニングです。とかちとのご縁を頂き、ランニングが趣味で本当に良かったと思える、忘れられない出来事があります。

生活をスタートするに当たり、まず考えたのは、新鮮な野菜の調達。そこで、赴任直後の週末に、ランニングがてら、道の駅まで野菜をゲットしに行くことにしました。ただ、当日は、あいにくの蒸し暑い天気。しっかりと水分などを準備します。スタートしてしばらくは、住宅街を駆け抜けます。川に近づいた頃、ご自宅の外で涼んでいらっしゃるお父さんを見かけます。そのお父さんの横を通り過ぎる際、「倒れんなよ！」と声を掛けていただきました。突然の呼びかけに、「ありがとうございます！」と返す言葉にも力が入ります。

気分を良くして進むと、川のたもと付近で私よりも若そうなランナーとすれ違います。この時にも「お疲れ様です！」と挨拶をして頂きました。気分は更に高揚し、天気を忘れてペースが上がります。

何とか無事に道の駅に到着。多くの人でにぎわう中で、新鮮な野菜を購入し、リュックに詰めて帰路に向かいます。蒸し暑い中、畑の中は日影が少なく、往路で張り切り過ぎたせいでしょうか、体に相当こたえます。「このまま無事に帰れるだろうか」と不安を抱いた頃、極めつけの出来事が起こります。サッカーの練習に行くのでしょうか、中学生くらいの3人組が自転車で向かってきて、すれ違いざまに「おはようございます！」と、皆さん元気良く挨拶をしてくれたのです。

見知らぬ土地にやってきて不安な中、その日の世代を超えた方々からの声掛けは、涙が出るほど嬉しかったですし、疲れも吹っ飛び、勝手ながら、とかちに「受け入れていただけた」という感情が芽生えました。

これまで、東京のランニングでは、それは多くの人々とすれ違っていましたが、山を除いて挨拶をすることはありませんでした。特にコロナ禍では、人に対して疑心暗鬼になりがちです。満員電車や外を歩いていても、周囲の人を過度に警戒してしまいます。そうなってはいけないとは思っていても、ふと、心に余裕のない自分に気づくことが多々ありました。この日の出来事は、そうしたこれまでの自分を振り返る機会を与えてくれました。

たかが挨拶、されど挨拶。挨拶一つで人の心を前向きにできる、信頼し合うきっかけになる。何と素晴らしいことでしょう。この日の出来事は、一生忘れません。

コロナを経験することで、コミュニケーションのデジタル化など、ライフスタイル、ワークスタイルはより進化するとともに変容しています。これはこれで正しい方向かもしれませんが、世代を問わず、殺伐とした世の中になってしまっている気がしてなりません。お互いの挨拶をはじめ、リアルなコミュニケーションの欠如には、自分としても気を付けていきたいと思います。

とかちの皆さま、これからもよろしくお願いいたします。

すずき・まさのぶ　1970年埼玉県生まれ。早稲田大商学部卒。93年日銀入り。入行後1年半、鹿児島支店で産業調査を担当した後は経営企画や総務畑が長い。2007年から5年、政策委員会室企画役として国会渉外や経理などを担当。12年から文書局企画役、20年に総務人事局人材開発課長、22年6月から現職。